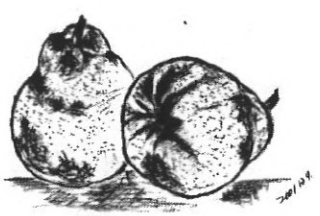
UTO ニットだより from Minamiaoyama　VOL.2 2001冬

テロ、狂牛病、不景気。暗いニュースが続く中、皇太子ご夫妻に愛子さま誕生という明るいニュースです。日本中の歓喜が不景気の気を吹き飛ばしてくれますよね。

月日が経つのが早いと感じるようになったら年を取った証だとよく言われますが、もう十二月。あっという間に一年が経ってしまった気がします。

駅までの通勤途中の植木屋さんの畑。落葉の木々はすっかり葉が落ちて、奥まで見通せるようになりました。あんな所に柘植や木犀・鼠モチなど思いのほか多くの常緑樹があったんだと気がつきます。そんな中、今は山茶花が盛りです。ピンクの花に混じって艶のある濃い緑の葉と真っ白の花弁のコントラストが目に染みます。

葉が落ちたばかりなのに次は梅の花芽が早く大きくならないかなぁと、視線は梅のつぼみを探しています。



【一部変更希望の客注におおわらわ】

積極的には宣伝していないのに、『この品番のウエストを五cm広くとか、袖丈を三cm短くして黒とこげ茶を一枚ずつ』と言うようなリクエストが結構多くなって嬉しい悲鳴をあげています。

それぞれのお店に大事なお得意様がいらっしゃいます。そんなお客様の『ここを何とか』という多くのご希望に、『大量生産しているわけじゃないんで大事なお客様だから作ってあげるよ』という工場さんの好意で始まりました。お店としても、ニットでは考えられなかったお客様への細かい希望にこたえることは最高のサービスですね。

ご存知の通りUTOの製品は一枚一枚熟練の職人さんの手作り。といっても一箇所の変更でも、減らし目したり増し目したり設計を変更しなくてはなりません。そのために『二週間くださいとか千円割増してください』とお願いしてますが、だんだん希望のお店も枚数も増え、他の現物との兼ね合いもあり追われ気味です。

このサービスにお客様やお店から『エェッ！割増は千円でいいんですか？たった二週間で自分の為にわざわざ作ってくれるの！』と驚かれ喜んで戴いています。改めて価値あるサービスなんだと再認識しています。

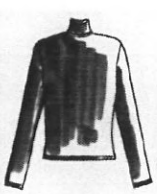
現在は安くなければ売れないという風調が蔓延しています。デフレスパイラルに入っているといっても、安いだけを求めているわけではない。特にファッションは暑さ寒さをしのげれば良いという衣料とは全く違いますよね。お客様の望むもの、良い商品とは、商品に対する満足の度合いと価格のバランスが大事だと思っています。満足が高ければ高額でも安いし、価格が低いから安いでは決して無いんでしょう。

これからももっとこんな細かい希望に当たり前に迅速に答えられるように頑張って、もっと多くのUTOの愛用者に満足していただけるよう努力していきます。

こんなメーカーが一社ぐらいあっても良いんじゃないでしょうか。

＊ウエストシェイプ＊

お洒落なインナータイプ　カシミアセーター



ありそうで無い、バストから軽くウエストを絞ったカシミアセーター。今年のUTOのカシミアのメインはこれです。ジャケットやスーツインにコーディネートする時すっきりして抜群の着心地。

長袖：¥24,000　半袖：¥22,000
ﾀﾝｸﾄｯﾌﾟ：¥20,000

＊ミンクのぽん天つきカシミアマフラー＊

今年はこれで稼がせてもらってます

完全にUTOのT版になりました。販売の１／３が黒、２・３番手がこげ茶と赤がいい勝負。薄いベージュが健闘。まだまだ追加ＯＫです。

全９色：¥12,000

＊着脱簡単・ネックの小物＊

タートルネックはお洒落だけど、暖かい部屋に入ったら首周りが暑くてちょっとと言う時に、簡単に脱げるネック。しかも肌にやさしいカシミア。

無地：¥4,000　配色：¥5,000

【南青山界隈】
ラッピングバスのお通り

我がUTOは骨董通りに沿ったビルの七階。南側に面した窓側で仕事しているので日当たりと眺めは抜群です。遠く恵比寿のガーデンプレイスのビル群、足下にパパス、ケンゾー、トラサルディー等のお店を見下ろしながら仕事しています。道行く人のファッションを観察するにも絶好のポジションです。

骨董通りは交通量の多い通りで殆ど終日混みあって、コイン式の駐車スペースはよっぽどのラックが無ければ停める事が難しい運転手泣かせの通りです。見下ろした真向かいが都バスの渋谷行き南青山六丁目のバス停です。

この路線は『渋８８番』、渋谷駅から青山通り、骨董通り、六本木通りを通って新橋までの往復路線です。同じ名前の停留所でも、新橋行きと渋谷行きではかなり離れているので慣れない人は戸惑ってしまいます。

この路線、昼間は十五分おきの運行ですので僕の足元を七分半に一台のバスが行き交うことになります。

昨年からこの都バスに大きな変化が現われました。それまではアイボリーとうす緑の冴えないワンパターンのバスでしたが、このバスのボディにカラフルな広告がペイントされだしたんです。石原都政でスタートしたラッピングバスという愛称で呼ばれる全面広告バスです。

今までは通っていても気にも止めなかったバスが、この広告で俄然注目の的、宣伝効果抜群です。特に色彩の濃い色のスペースが広いバスは歩いていても思わず振り返るほどです。真っ赤の背景にサザンの桑田圭祐の大きな顔のコカコーラ、深い緑一色のグリーンガム、濃紺に白のＢＯＳＳ、全面コーヒー色のジョージア、赤と白のコンパック等々。はたまた、地方自体や放送局提供のテレビ番組のＣＭまであります。やっぱりデザインの良い（好きな？）広告のバスは商品も好意印象。デザインでもセンスのいい奴、ダサい奴いろいろです。（全くの私見です）

フルペイントでなく『ラッピング』という、お役人が考えたとは思えない呼び方が新鮮ですね。この渋８８路線は広告主に人気の路線だそうで順番待ちだそうです。

この広告収入で都バスの相当の赤字が埋められるそうですから、なかなかのアイディアだと思います。もちろん都知事自身が考え出したわけではいでしょう。ブレーンの人の提言なりどこかにアイディアの元があるんでしょうが、このアイディアを積極的に導入することで無から有を生み出していると思います。多分、都の広告収入以上にこれを制作する方の経済効果がもっと大きいんじゃないでしょうか。

インターネットにも、このラッピングバスの写真を網羅した『ＧｏＧｏラッピングバス』というホームページまであります。結構多くの人が楽しんでいるようです。通行人の中には、『派手ねぇ』と不満そうな声も聞くこともありますが、私は大賛成。大いに競って良いデザインと経済効果をもたらして欲しいものです。そのうち頑張ってUTOも走らせよう。

株式会社ユーティーオー　〒107-0062 東京都港区南青山6-2-10 ﾊﾞｯｸﾎﾞｰﾝﾊｳｽ7階 TEL:03-3498-2230 FAX:03-3498-2406 E-mail:uto@cc.mbn.or.jp

＊ニットの話＊（二）

カシミアセーター・手洗いの勧め

『カシミアは絶対クリーニング』と思い込んでいる人が案外多いようです。
『二～三回着たらクリーニング屋さんに出さなきゃならないんでお金がかかるのよねぇ』という声を度々聞きます。
軽くてふわふわのカシミアニットは弱々しく、また高価だし、縮んだりするのが心配でクリーニングに出してしまうのは解らないでもありません。

ＵＴＯのカシミアも一応ドライ表示にしてあります。でも直接お会いした人には説明して手洗いを勧めています。矛盾する行為ですが、誤解からの間違いが結構多いのであえて手洗いにはしていません。
これから説明する通に洗ってあげると絶対に縮むことはありません。大事なカシミアニットだからこそ自分で洗ってあげてください。

ポイントは『水の温度が高いと縮みやすい、洗う時間が長いと縮みやすく毛羽が立ちやすい』です。
よく『洗濯は、ぬるま湯で』という人がいますが、私はその理由がよく理解できません。洗濯の温度は室温で十分ですし、洗剤さえ溶ければ少々冷たい水でもかまいません。
それより、繊維が細いですから摩擦に気をつけてください。だから短時間で洗うことです。しかも優しく。
カシミアをごしごし洗う人はいないと思っていたんですが、他の洗濯物と一緒にがんがん洗って『毛羽立った!』とクレームを言ってこられる、信じられないような人も中にはいらっしゃいます。

ウール洗いの洗剤やシャンプーで短時間押し洗いする程度で普通の汚れは取れるはずです。
ニットの糸は布帛に比べると撚りはあまいし、編地も布帛の打ち込みに比べたら比較にならないくらい疎ですので汚れも取れやすいんです。
部分的な目立つ汚れは指でもみ洗い、それでも取れない汚れは汚れと言うより染みと思ってください。たんぱく質が変化してシミ化したのは洗濯の範囲を超えた専門家の領域ですので、がんがん洗っても取れません。

洗い終わったらリンス等の柔軟剤をかけ十分に濯いでください。汚れと一緒に取れた油分を補充してキューティクルを保護してあげるんです。髪もウールも基本的には同じですから。

その後の絞りが大事です。
脱水機で完全に水気を取ってください。
『エ・エッツ!脱水機!』と驚く人が多いんですが、そう、脱水機です。
勇気を出して脱水機でまわしてください。もちろん、てキチンとたたんであげてください。

水気を取ってしまうと型崩れしにくいです。
後は形を整えて平干です。
バスタオルの上なんかが良いでしょう。半日ぐらいでひっくり返してバスタオルの位置を変えてください。そうしないとセーターの下はかなり水気がありますよ。風通しのあるほうが乾きやすいです。もちろん陽が当たってもかまいません。

半絞りの状態で吊るして干すと、水分が下のほうに溜まってその重みで伸びてしまい、乾くとその伸びた状態が定着します。不味い乾かし方の典型です。
また、乾燥機に入れると熱風でフエルト現象を起こして子供用みたいに縮んでしまいます。
これはウール特有の現象で、フエルトの作り方がこの方法ですから縮まないはずがありません。

カシミアといえどポイントさえ守れば普通の手洗いで何の問題も起きません。
手洗いといっても洗濯機の手洗いモードで結構です。
もしこの方法で我がＵＴＯのカシミアが縮んだら新しいのと交換するか代金をお返しします。
自分で洗ってもっともっと着てカシミアのよさを楽しんでください下さい。

忙中暇話・ニット屋のたわごと

みんな一緒はごかんべん

そんな気はさらさらないのに、知らなかった為に相手を困らせてしまうことがありますね。
思わぬ体験でその国の習慣や考え方の違いを知ることがあります。その後の考え方の原点になった体験です。

添乗員の駆け出しの頃、オーストリアのある小さな街での自由行動でのお昼の時でした。
皆バラバラに行動していたんですが、小さな街のこと途中で出会って一緒にお昼を食べることになり、結局二十人ぐらいになってしまいました。
三十人も入れば一杯の小さなレストランです。

早速注文、たまたま私が『これにする』と決めたら、それなら皆も同じでいいことでまとまりました。日本人にはよくあるパターンです。
すると主人のシェフが飛んできて「今日はこれが美味しいよ」、「これは絶対お勧め」といろいろ勧めてくれるんです。
あまりにも主人が熱心に勧めてくれるので、「じゃ,俺はこれ」とか「私はこれ食べてみようかな」と言う具合に遠慮なく自分の食べたいものを注文しだしたんです。

予想以上の料理で大満足した人。自分が想像した料理じゃなくても新鮮なチャレンジをそれなりに楽しんでとってもいい食事が出来ました。
食事が終わってニコニコしながら出てきた主人との話で改めて考え方の違いを認識しました。
日本人のお客様は初めてだけど、二十人もの人が同じ料理を食べたいということが信じられなかったそうです。
そして、宴会なら別だけど二十人分の食事をいっぺんに料理する設備は無いし困って飛び出してきたそうです。
でもこちらとしては、『みんなバラバラだったら大変だろうから、同じでいいや』という一種の思いやりや遠慮が入っているんですね。

考えかたや好みが基本的にみんな一緒ということからスタートして、少々の自我は我慢して『和』を保とうとする我々と、人間一人一人違っている、だからその違いを知ってその違いの尊重して伸ばそうとする。
どっちにも一長一短ありと思いますが、この違いが面白かったり、悲劇を産んだりするんですね。

海外に出るとよく聞かれますね。
「コーヒーにしますか?紅茶にしますか?」、「お砂糖は?ミルクは?」。
日本では黙っていても、冬はあつ～いお茶や、暑い夏ならよ～く冷えた麦茶。この以心伝心の心地よさ。
でも知らない人はビックリするかも。

ホテルを旅する　（二）　ディンケルスビュール・ドイツ

ホテル　ドイチェスハウス

南ドイツの豊かな畑と美しい自然の中に歴史的な街が次々と現われるロマンチック街道の旅は、最近ヨーロッパ旅行の人気のコースですね。と言うよりＴ版になっているようです。ここを初めて訪れたのは今から三十年近くも前のことでした。

ドイツの詳しい旅行案内にも半ページの説明も無い頃で、ドイツ大使館に足を運んで文化部の担当官が何回も本国と連絡し情報を取ってくれてやっと旅程を作りました。

この街道にローテンブルグという有名な街がありますが、その南にディンケルスビュールという街があります。堅固な城郭に囲まれた小さな街です。
歩いてもわけなく一周できます。
城郭の周りの半分は豊かな畑と美しい緑、もう一方は掘割に囲まれた美しい街です。
城郭の門を入るとまさに中世が今に息づいています。
古い石畳の通り。伝統的な家々。窓辺には丹精された花々が道行く人の目を和ませてくれます。

ドイチェスハウスはこの街の中心に建つホテルです。
南ドイツ独特の木組みの美しい建物は一五世紀に建てられ、元は市庁舎としても使われた建物でこのホテル自体が歴史的建造物で、この街を訪れる観光客が必ず立ち寄る観光名所です。

通りに面した部屋から外を眺めていると次々と観光バスが停車して撮影の被写体にされてしまいます。もちろんホテルの建物を映していることは百も承知ですが、みんなが手を振ってくれカメラを向けられるとなんとなく有名人になった気分。

ホテルの内部の太い柱や梁は黒々として、家具はいかにもドイツらしい質実剛健な作りで、レストランのテーブルにかけられた真っ白なクロスが印象的です。
奥のテーブルで往時を偲びながらコーヒーを飲んでいると、学生時代クラシックの音楽を聴いた喫茶店を思い出し懐かしい気持ちになってしまいます。
そこに賑やかな一団が観光バスでご到着です。
慌しく食事をしたり、ホテルのマークの入った記念のお土産を買い、ホテルの前で記念撮影を済ますと早々と次に向けて出発です。
忙しいのは我々日本人だけでなくドイツ人もアメリカ人も観光客はいずこの人も忙しいものです。
そんな慌しい観光客の喧騒が一段落すると、元の静かな十室の小さなクラシックホテルに戻ります。　うと